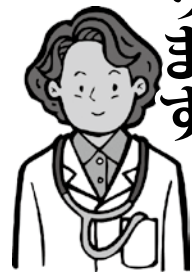


新たなワクチン接種費用の助成が始まります

子 宮頸がんワクチンに加え、新たにヒブ（Hib）と小児肺炎球菌の任意ワクチンの助成を2月1日から実施します。



予防接種の種類・対象者など

予防接種の種類や対象者などについては、次のとおりです。

▼ 予防接種種類・対象者など

（開始時期：平成23年2月1日～）

種類	対象者	接種間隔と回数	接種量・法	接種方法	助成額
子宮頸がん	中学3年に加え 高校1年女子	1か月間隔で2回 6か月後1回	0.5ml筋肉	集団 (個別)	1回につき 12,600円
ヒブ(Hib)	生後2～7か月未満	4～8週間隔で3回 1年後1回	0.5ml皮下	個別	全額
	生後7～1歳未満	4～8週間隔で2回 1年後1回	0.5ml皮下	個別	全額
	満1歳～5歳未満	1回	0.5ml皮下	個別	全額
小児肺炎球菌	生後2～7か月未満	27日以上間隔で3回 60日以上その後1回	0.5ml皮下	個別	全額
	生後7～1歳未満	27日以上間隔で2回 60日以上その後1回	0.5ml皮下	個別	全額
	満1歳～2歳未満	60日以上間隔で2回	0.5ml皮下	個別	全額
	満2歳～5歳未満児	1回	0.5ml皮下	個別	全額

各ワクチンの効果

▼ 子宮頸がんワクチン

子宮頸がんの約60%の原因であるHPV（発がん性ヒトパピローマウイルス）16型・18型の2種類の感染を防ぐワクチンです。HPVは性交渉を介して感染し、女性は生涯の間に約80%は感染します。近年は20～30歳代に増加しています。

このワクチンは16型・18型以外のHPVには有効ではないため、ワクチン接種後も定期的な検診受診が必要です。3回接種しないと十分な効果を得ることができません。

▼ ヒブ（Hib）ワクチン

ヒブ（Hib）の感染を防ぐワクチンです。ヒブはインフルエンザ菌B型と呼ばれますが、インフルエンザウイルスとは別のもので、化膿性髄膜炎・肺炎・敗血症など重い全身感染症を引き起こすものです。日本では年間600人、5歳までに二千人に一人の子供が髄膜炎にかかり、3割は予後不良です。全体の過半数が生後4か月から2歳未満にかかっています。

WHOでは、1998年に乳幼児への接種勧告をしており、110か国以上

上の国では、すでに導入されており、日本では、2008年12月から接種可能となりました。

このワクチンを接種することで、接種部位の発赤、腫れ、硬結、痛みが副反応として見られることがあります。数日程度で回復します。

▼ 小児肺炎球菌ワクチン

小児肺炎球菌は、ヒブと共に子どもに多い髄膜炎の原因菌とされ、肺炎球菌性髄膜炎の約40%が生後不良とされています。かかりやすいのは生後3か月から5歳くらいまでです。

今回接種するワクチンは、91種類の肺炎球菌の80%に有効とされるワクチンです。海外の98か国で認可され、45か国で定期接種に使用されています。

このワクチンを接種することで、接種部位の発赤や腫れ、時として発熱や傾眠傾向が副反応として見られることがあります。

ワクチンの接種方法と助成内容

▼ 子宮頸がんワクチン

高校1年生には、ワクチンの接種方法と助成について個別に通知します。ワクチン接種は、町立三春病院での実施となります。

※ 中学3年生については、すでに通知しています。

▼ ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチン

乳幼児のヒブ・小児肺炎球菌ワクチンについては、接種を委託する「**田村郡内医療機関**」で接種することができます。かかりつけの医師と相談し接種を受けてください。

麻しん風しんの予防接種をうけましょう

麻しん風しんの予防接種は2回の接種となります。定期予防接種の対象となっている方は、無料で受けることができますので、期間内に予防接種を受けましょう。

◆ 平成22年度2回目接種の対象者

- ◇ 小学校入学前の1年間（平成16年4月2日～平成17年4月1日生まれ）
- ◇ 中学1年生相当（平成9年4月2日～平成10年4月1日生まれ）
- ◇ 高校3年生相当（平成4年4月2日～平成5年4月1日生まれ）

◆ 接種期限 平成23年3月31日まで ※ 期間を過ぎると自費接種となります。

◆ どうして2回の接種が必要なのか？

- ◇ 1回目の接種で免疫を獲得できなかった子どもたちに免疫を与えることができます。
- ◇ 1回目の接種で免疫を獲得しても、その後の時間の経過とともにその免疫力が弱まります。2回目を接種することで、免疫力の弱まった子どもたちの免疫を強固なものにできます。